

アレクサンドル・メドヴェトキン監督『新しいモスクワ』(1938年)
スターリン時代に歴史の闇に葬られた幻のソ連コメディ映画を、日本語字幕付きで上映!

Новая Москва

Александр Медведкин

2020年 2月6日 (木)
16:00-18:30

第1部

16:00-17:30

『新しいモスクワ』上映

第2部

17:45-18:30

作品解説(本田晃子 岡山大学)

岡山大学文学部プロジェクト研究
「イメージの人文学」主催

お問い合わせ先: 岡山大学文学部 本田晃子
ahonda@okayama-u.ac.jp

入場無料・事前予約不要

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1
岡山大学津島キャンパス
文法経1号館2階 文学部会議室

『新しいモスクワ』

第1部『新しいモスクワ』上映

アレクサンドル・メドヴェトキン
(1900-1989年)

ロシア帝国ペンザ県の農民の家庭に生まれる。1917年に十月革命後が勃発し、国内が革命軍（赤軍）と反革命軍（白軍）に分かれて内戦状態になると、メドヴェトキンは赤軍に参加し、部隊内の演劇部門を指揮した。

内戦終結後は国营映画会社ソフキノに所属し、映画監督として活動を開始。1928年にスターリンの五カ年計画が始まると、「映画列車」を編成してソ連各地をめくり、その場で映像を撮影・編集し上映するという試みを行った。

1934年には初の長編映画『幸福』を発表、セルゲイ・エイゼンシュテインらソ連を代表する映画監督からも絶賛される。その後は『奇跡の娘』（1936年）、『新しいモスクワ』（1938年）を立て続けに製作するが、『新しいモスクワ』は厳しい批判を受けて上映禁止となった。

戦後は主としてドキュメンタリー作品を中心に手掛け、ソ連国内外で高い評価を得た。

『新しいモスクワ』（1938年）あらすじ

主人公の青年アリョーシャは、故郷モスクワを離れシベリアの僻地で新しい街の建設に携わっていた。建設作業の傍ら、彼や彼の同僚たちは愛するモスクワを想って、そのミニチュア模型を制作する。古い街並みから現在の新しい街並みへと自動的に姿を変えていく彼らの模型は評判となり、モスクワで開催される博覧会で展示されることになった。

模型をもって祖母と共にシベリア鉄道でモスクワへと向かう途上、アリョーシャはモスクワ出身の美女ゾーヤ、養豚の研究をしている娘オーリヤと出会う。美しいゾーヤに惹かれるアリョーシャだったが、モスクワに到着すると、そこにはゾーヤに恋する画家フェージャがいた。こうして、日々刻々と変化するモスクワの街並みを背景に、男女4人のコミカルな恋模様が展開されていく。

※古い映像のため見苦しい点がありますが、予めご了承ください。日本語字幕はKINØによるものです。

KINØ

文学、映画、演劇を専門とする三人の若手研究者（梶山祐治、伊藤愉、奈倉有里）による、知られざるソ連・ロシア映画を紹介上映するプロジェクト。

<https://kinOblog.wordpress.com/>

第2部 作品解説（本田晃子 岡山大学）

映画『新しいモスクワ』は、1935年に採択されたスターリンのモスクワ改造計画を礼讃するという目的をもった、いわゆるプロパガンダ映画だった。映画内にスターリンの「新しいモスクワ」がどのように反映されているのか、第2部では映画と都市計画の関係を中心に、作品を読み解いていく。

